

# 833. A. N. Kolmogoroff: 可附番無限個ノ 可能ノ状態ヲ持ツ Markoff連鎖

樋口 順四郎 訳 (阪大)

A. Kolmogoroff の *Recueil Math.* (1(43) (1936) 607-610) = *Anfangsgründe der Theorie der Markoffschen Ketten mit unendlich vielen möglichen Zuständen*  
ト題スル論文ヲ発表シマシタガ、ソコデハ詳細ノ説明ハ述ベ  
ズ、*Bulletin de l'université d'état à Moscou*  
(Sec A, vol. 1, 1939)ノ論文 *Cepi Markova so sčetsnym čislom vozmožnych sostojanij*  
(*Chaînes de Markoff avec une infinité dénombrable des états possibles*)ヲ始メ  
テソノ詳細ヲ述ベテキマス。以下ハソノ翻譯デス。

## § 1. 記號

考察ノ對象トナル systemノ個々ノ可能ノ状態ヲ  $E_i$   
デ表ハス。茲ニ  $i$ ハスベテノ自然数ヲ動ケモノトスル。トハ  
イヘ、 $i$ ガ有限ノ値ニ止コル場合ニモ、後述ノ議論ハ有效デ  
アロウ。コノ場合ニハ議論ヲ省略ニシ得レコト用カガアラ  
ウ。  $E_i$ カラ  $E_j$ ヘ one stepカノ遷移確率  $p_{ij}$ ハ

$$p_{ij} \geq 0 \quad (1)$$

$$\sum_j p_{ij} = 1 \quad (2)$$

ヲ満足スル。  $E_i$  カラ  $E_j$  へ  $n$  step へ遷移確率  $P_{ij}^{(n)}$  ハ  
次ノ等式ヲ帰納的ニ定義サレル。

$$P_{ij}^{(0)} = \delta_{ij} \begin{cases} = 1 & i=j \\ = 0 & i \neq j \end{cases} \quad (3)$$

$$P_{ij}^{(n+1)} = \sum_k P_{ik}^{(n)} P_{kj} \quad (4)$$

更ニ  $E_i$  カラ  $E_j$  へ  $n$  step へ始メテ遷移スル確率ヲ  
 $K_{ij}^{(n)}$  テ表ハス。明ラカ

$$K_{ij}^{(n)} = P_{ij}^{(n)} - K_{ij}^{(1)} P_{jj}^{(n-1)} - \dots - K_{ij}^{(n-1)} P_{jj}^{(1)} \quad (5)$$

特ニ  $K_{ij}$  ハ状態  $E_i$  カラ出テ  $n$  step 後ニハジメテモトノ  
 $E_i$  へ戻ル確率デアル。尚

$$\sum_{n=1}^{\infty} K_{ij}^{(n)} = L_{ij}$$

ト書ク。  $L_{ij} = 1$  テアレバ system ハ状態  $E_i$  カラ出テ  
早晚状態  $E_j$  へ到達シナケレバナラナイ。  $E_i$  カラ  $E_j$   
へ遷移スルニ必要ナ step 数ノ数学的期望値ハ

$$M_{ij} = \sum_{n=1}^{\infty} n K_{ij}^{(n)} \quad (7)$$

デアル。特ニ  $M_{ii}$  ハ最初  $E_i$  ニアツタモトガ、  $E_i$  へ戻ル  
ニ要スル step 数ノ数学的期望値デアル。  $M_{ij}$  ハ有限ニモ  
無限ニモナリ得ル。

§2. 非本質的状態, 本質的状態ノくらす及

に部分くらす。

$P_{ij}^{(n)} > 0$  トナル  $n, j$  ハ存在スルガ、凡テ  $m = 0$  ナキ  
 $P_{ji}^{(m)} = 0$  ナアルトキ、即チ  $E_i$  カラ  $E_j$  へノ遷移可能ナ  
ルガ、 $E_j$  カラ  $E_i$  へノ遷移ナシトシテ状態  $E_i$  ハ 本質的  
(essential) ナイト稱スル。ソノ他ノ状態ハ essential  
ナラズ ト云フ。  $E_i, E_j$  ガ共ニ essential ナ  $P_{ij}^{(n)} > 0$   
トナル  $n$  ガ存在スルナラバ、 $P_{ji}^{(m)} > 0$  トナル  $m$  ガ又存  
在シナケレバナラヌ事ハ明ラカナリ。コノヤウナ  $n$  及ビ  $m$   
ガ存在スル場合ニ  $E_i$  及ビ  $E_j$  ハ mutually connected  
ナアルト云フ。

今  $E_i$  ト  $E_j$  トガ互ニ connected ナ、 $E_j$  ガ  $E_k$  ト  
connected ナラバ、 $E_i$  ト  $E_k$  ハ又互ニ connected  
ナアル。故ニスベテノ essential ナ状態ハくらす  $S^{(2)}$   
ニ分タレ、一ツノくらすニ属スルモノハ互ニ connected  
ナアリ、異ルくらすニ属スルモノトハ connected ナシ。  
加之、essential ナ状態  $E_i$  ト essential ナシ状態  
 $E_j$  トニ対シテハ明ラカニ  $P_{ij}^{(n)} = 0$  ナアル。此ノ様ニシテ  
吾々ノ system ハ一度くらす  $S^{(2)}$  ノ何レカニ入レバ決シ  
テソノくらすノ例外ニ出レコトナシ。

次ニ任意ノ essential ナ状態  $E_i$  ヲ考ヘヨシ。  $P_{ii}^{(n)} > 0$   
トナル  $n$  ノ集合ヲ  $M_i$  トスレバ、 $E_i$  ハ essential ナ  
ルカラ  $M_i$  ハ空デハナシ。  $n, m \in M_i$  ナラバ  $n+m \in M_i$   
ナアル。  $d_i$  ヲ  $M_i$  ニ属スル数ノ最大公約数トスルト、

$M_i$  は  $d_i$  の倍数 / ミカラナリ, 充分 = 大キナ  $d_i$  の倍数ハ  
 $M_i =$  属スルコトガ容易 = 証明サレル。 数  $d_i$  ハ状態  $E_i$   
ノ周期ト呼ベレル。

同一ノクラス  $S^{(\alpha)}$  = 属スル総テノ状態ハ同一ノ周期ヲ  
持ツコトガ容易 = 証明デキテ, コノ共通ノ周期ヲ クラス  $S^{(\alpha)}$   
ノ周期ト称シ  $d(\alpha)$  ト書ク。 実際, ニツノ状態  $E_i, E_j$  ガ  
同一ノクラス  $S^{(\alpha)}$  = 属スルナラ  $P_{ij}^{(n)} > 0$  及ビ  $P_{ji}^{(m)} > 0$   
トナルル,  $n, m$  ヲ見出スコトガ出来ル (コノ様ナ  $n, m$  ハ前  
= 述べタ通り存在スル)。 左ガ充分大キケレバ  $P_{ji}^{(kd_j)} > 0$  デ  
アルカラ, 従ッテ又

$$P_{ii}^{(kd_j + n + m)} \geq P_{ij}^{(n)} P_{jj}^{(kd_j)} P_{ji}^{(m)} > 0,$$

即チ 充分大キナ  $k =$  對シテ  $kd_j + n + m$  ノ形ノ数ハ  $M_i =$   
属スル。 シカシコレハ  $d_j$  ガ  $d_i$  デ割り切レルトキ = 限り可  
能デアアル。 同様ナ理由デ  $d_i$  ハ  $d_j$  デ割り切レナクテハナラ  
ナイ。 即チ  $d_i = d_j$  デアル。

同一ノクラス  $S^{(\alpha)}$  = 属スルニツノ状態  $E_i, E_j =$  對シ  
同時 =  $P_{ij}^{(n)} > 0$  及ビ  $P_{ji}^{(m)} > 0$  トナルノハ  $n$  ト  $m$  ガ  $\text{mod.}$   
 $d(\alpha)$  デ congruent ナトキ = 限ル。 故 =  $S^{(\alpha)}$  カラ勝手  
手 =  $E_i$ 。 フーツ取り出セバ, 同一ノクラスノ  $E_i =$  對シテハ  
 $P_{i_0 i_0}^{(n)} > 0$  トナルノハ  $n \equiv \beta(E_i) \pmod{d(\alpha)}$  / 時 =  
限ル  $\times$  ヲ  $\beta(E_i) = 1, 2, \dots, d(\alpha)$  ガ定マル。 同  $\beta(E_j)$   
ヲ持ツ状態  $E_j$  ノスベテヲ部分クラス  $S_{\beta}^{(\alpha)}$  = 属セシメル。  
斯ノ様 =  $S^{(\alpha)}$  ハ  $d(\alpha)$  個ノ部分クラス  $S_{\beta}^{(\alpha)}$  = 分レル。 吾

々、system の各 step = 於テ、 $S_{\beta}^{(\alpha)}$  = 属スルアル状態カ  
 ラバハ  $S_{\beta+1}^{(\alpha)}$  ノ、 $\forall \nu =$  遷移スル。但シ  $\beta = d(\alpha)$  ノ時  
 ハ  $S_{\beta}^{(\alpha)}$  ノ、 $\nu =$  遷移。カクシテ  $E_i, E_j$  が部分クらす  $S_{\beta}^{(\alpha)}$ 、  
 $S_{\gamma}^{(\alpha)}$  = 属スレバ、 $P_{ij}^{(n)}$  ハ  $n \equiv \gamma - \beta \pmod{d(\alpha)}$  ノ時  
 = 限ツテ 0 ト異ル。又  $\nu$  充分大キテ上述ノ合同式ヲ満スル  
 = 対シテハ  $P_{ij}^{(n)} > 0$  テアル。

### §3. 再歸及ビ非再歸くらゐ

状態  $E_i$  ヲ出テ何時カハ一度  $E_j$  ヲ訪レル確率  $L_{ij}$ 、  
 他ニ、 $E_i$  ヲ発シテ  $E_j$  ヲ無限ニ訪レル確率  $\Omega_{ij}$  ヲ考察シ  
 ヲウ。明ラカニ不等式

$$\Omega_{ij} \leq L_{ij} \quad (8)$$

が成立スル。一方吾々ハ此処テ次ノ lemma ヲ証明シ  
 ヲウ。

**Lemma I**  $L_{ii} = 1$  + ラバ  $\Omega_{ii} = 1$  テアル。

証明:  $E_i$  ヲ出タノチ、少クト  $k$  回同一ノ状態  $E_i$   
 ヲ訪レル確率ヲ  $T_{(k)}$  ト書ク。常ニ

$$T_{(1)} = L_{ii}, T_{(k+1)} = T_{(k)} L_{ii}, \Omega_{ii} = \lim_{k \rightarrow +\infty} T_{(k)}$$

テアルコトハ明ラカテアル。  $L_{ii} = 1$  ノ場合ニハ上ノ式カラ  
 $\Omega_{ii} = 1$  テアルコト明白テアル。

此ノほらぐらふ及ビ次ノ若干ノほらぐらふニ於テハ  
 專ラ essential element ノ各くらす内テノ相互関係  
 ノミニ関心ヲ持ツ。換言スレバ、状態ニ属スルズベテノ index

ハミーツノくらす内ノソレノミヲ動クモノト假定スル。定理ノ敘述デハコレヲ「ミーツノくらすノ範囲内ニ於テ」ト云フ言葉ヲ表現スル。

**定理 I c** ミーツノくらすノ範囲内ニ於テハ、スベテノ  $\Omega_{ij} < 1$  デアルカ、或ヒハスベテノ  $\Omega_{ij} = 1$  デアルカノ何レカデアル。

証明: 任意ノ  $i, j, k$  = 對シテ次ノ關係ヲ言ヘバ充分デアアルコト明ラカデアアル。

$$1) \quad \Omega_{ij} = 1 \quad \text{トラバ} \quad \Omega_{ik} = 1$$

$$2) \quad \Omega_{ji} = 1 \quad \text{トラバ} \quad \Omega_{ki} = 1$$

モシコノニツガ成立スレバ、任意ノ  $i, j, i', j'$  = 對シテ、 $\Omega_{ij} = 1$  トラバ  $\Omega_{i'j'} = 1$ 、從ツテ  $\Omega_{i'j} = 1$  ナル。

1)ノ証明ニ移ラシ。  $\Omega_{ij} = 1$ 、即チ確率 1ヲ以テ、状態  $E_i$ ヲ出タ後 =  $E_j$ ニ無限ニカヘルト假定スル。  $E_j$ ヘノ  $S$ 回ト  $S+1$ 回ノ復帰ノ途中ヲ考ヘヨウ。考ヘテキル状態ハスベテ同一ノくらすニ屬スルカラ、  $E_j$ ヘノ  $S$ 回ト  $S+1$ 回ノ復帰ノ途中デ、特定ノ状態  $E_k$ ヲ訪レル事象  $\mathcal{U}_S$ ハ正ノ確率ヲ持ツ。コノ確率ハ  $\Delta$ ニハ無關係デ、  $\mathcal{U}_S$  自身モ亦  $\Delta$ ヲ變ヘタトキ互ニ独立デアアルコトハ容易ニ認メルコトが出来ル。

シカレニ同一ノ正ノ生起ノ確率ヲ持ツ事象  $\mathcal{U}_S$ ノ系列中、無限ニ多クハ 確率 1ヲ以テ實現サレル<sup>\*</sup>、即チ  $\Omega_{ik} = 1$  デ証明

\* Borel-Cantelli, 定理 (訳者註)

スベキ事柄 = 他ナラヌ。

残ルハ 2)ノ証明デアル。ソレニハ任意ノ  $i, j, k, n =$   
就キ成立スル次式ヲ利用スル。

$$\Omega_{ji} = \sum_k P_{jkc}^{(n)} \Omega_{ki} \quad (9)$$

$\sum_k P_{jkc}^{(n)} = 1$  デアルカラ,  $\Omega_{ji} = 1$  デアルナラバ,  $P_{jkc}^{(n)} > 0$   
トナルスベテ,  $k =$  対シテ  $\Omega_{ki} = 1$  デナケレバナラナイ。  
シカモ (同一ノクラスノ範圍内) 任意ノ  $j, k =$  対シテハコノ  
様ナル  $n$  ハ存在スル。斯クシテ 2), ソレト同時ニ定理 I a  
ガ証明出来タ。

モシスベテノ  $\Omega_{ij} = 1$  デアレバ, 不等式 (8) = 依リス  
ベテノ  $L_{ij} = 1$  デナケレバナラヌ。モシ又スベテノ  $\Omega_{ij} < 1$   
ナラバ Lemma 1 = ヨリスベテノ  $L_{ij} < 1$  デナケレバ  
ナラヌ。依ツテ

**定理 I b** 一ツノクラスノ範圍内ニ於テハ, スベ  
テノ  $L_{ii} < 1$  デアルカ, 或ヒハスベテノ  $L_{ij} = 1$  デアル  
カノ何レカデアル。

スベテノ  $L_{ii} < 1$  ノ場合ニハ,  $L_{ij} = 1 (i \neq j)$  ト  
ナリ得ルコトハ指摘シテおくベキデアロウ。

スベテノ  $L_{ij} = 1$  及ヒスベテノ  $\Omega_{ij} = 1$  デアレバ,  
再帰クラス (vozvratnyj klass) ト云フ。之レニ及  
シスベテノ  $L_{ij} < 1, \Omega_{ij} < 1$  ノ時ニハ, 非再帰クラ  
スト呼ビレル。状態  $E_j$  ガ非再帰クラスニ屬シ,  $E_i$  ガ任  
意ノ時ニ

$$\lim_{n \rightarrow +\infty} P_{ij}^{(n)} = 0$$

デアルコトハ容易ニ確認スルコトガデキル。

## §4. 正くらす及びぬるくらす

此ノほらぐらふデハ再帰くらすノ各々ノ内部ニ觀察サレル現象ヲ考ヘル。ソノ結果トシテ再帰くらすハ正及びぬる (null)ノニツニ分割サレル。然シテ次ノほらぐらふデハぬるくらすト同時ニスベテノ非再帰くらすニモ触レルコトヲ注意シテオク。

再帰くらすヲ研究スルトキニ、幾時的期望値  $M_{ij}^{(n)}$  (9) 参照) ハ基本的ニ意味ヲモツ。ソレニ關係シテ吾々ハ平均

$$\bar{\Pi}_{ij}^{(n)} = \frac{1}{n} (P_{ij}^{(1)} + P_{ij}^{(2)} + \dots + P_{ij}^{(n)}) \quad (10)$$

ヲ考ヘヨウ。

**Lemma II** 再帰くらすノ任意ノ  $E_i$ ニ對シ、 $M_{ii}$

ガ有限トラバ

$$\lim_{n \rightarrow +\infty} \bar{\Pi}_{ii}^{(n)} = \frac{1}{M_{ii}} ;$$

$M_{ii} = +\infty$  デアレバ

$$\lim_{n \rightarrow +\infty} \bar{\Pi}_{ii}^{(n)} = 0$$

証明： 状態  $E_i$  カヲ出発シテ、同一ノ状態ニ無限ニ歸

ソノ確率ハ 1 = 等シイ。最初ノ復歸ガ  $n_1^{th} \Delta step =$ ,  
 第二回ガ  $n_2^{th} \Delta step =$ , 一般ニ第  $k$  回ガ  $n_k^{th} \Delta step =$   
 起ルトスル。

$x_1 = n_1, x_2 = n_2 - n_1, \dots, x_k = n_k - n_{k-1}, \dots$   
 ナル差ハ, 互ニ独立デ、スベテニ對シテ同一ノ分布ノ法則:  
 $X_k = \Delta$ ガ確率  $K_{ii}^{(\Delta)}$  ノモツ *variable aléatoire* ノ  
 系列デアル。明ラカニ,  $M_{ii}$  ハ  $x_k$  ノ数学的期望値ニ他ナ  
 ラズ。

最初 *variable aléatoire*  $X_k$  ノ数学的期望値  
 $M_{ii}$  ガ有限ナ場合ヲ考ヘル。コノ時ハ A. Khintchine (ウ  
 ンチン) ノ定理\*ニ依リ系列  $\{x_k\}$  ハ大數ノ法則ニ從フ。  
 即チ任意ノ  $\varepsilon > 0$  = 對シ  $k_0$  ガ存在シ,  $k > k_0$  ナラバ

$$\left| \frac{1}{k} \sum_{j=1}^k x_j - M_{ii} \right| = \left| \frac{n_k}{k} - M_{ii} \right| \geq \frac{\varepsilon}{2}$$

トナル確率ハ  $\varepsilon$  ヨリ小サシ,  $\varepsilon < \frac{1}{2}$  及ビ  $n \geq n_0 = 2k_0 M_{ii}$   
 トシ,

$$k' = \frac{n}{M_{ii}} (1 - \varepsilon), \quad k'' = \frac{n}{M_{ii}} (1 + \varepsilon)$$

トオケバ  $k' \geq k_0, k'' \geq k_0$  デアルコトハ容易ニ合ル。故  
 ニ  $1 - \varepsilon$  ヨリ大キク確率ヲモツテ次ノ不等式ガ成立スルコ  
 トガ認めラレル。

$$\left| \frac{n_{k'}}{k'} - M_{ii} \right| < \varepsilon,$$

\* C. R. Paris 1880 p. 471 參照

シカド = コノ不等式カヲ ( $M_{ii} \geq 1$  デアルカラ)

$$|n_{k'} - n(1-\varepsilon)| < k'\varepsilon \leq n\varepsilon$$

ガ従ヒ, コレカラ

$$n_{k'} < n$$

同様ニ,  $1-\varepsilon$  ヨリ大キナ確率ヲモツテ

$$\left| \frac{n_{k''}}{k''} - M_{ii} \right| < \frac{\varepsilon}{2},$$

$$|n_{k''} - n(1+\varepsilon)| < \frac{k''\varepsilon}{2} \leq n\varepsilon,$$

$$n_{k''} > n$$

ガ成立スル。カクシテ  $n \geq n_0$  トラバ  $1-2\varepsilon$  ヨリ大キナ確率ヲ

$$n_{k'} < n < n_{k''}$$

ガ成立スル。即チ最初ノ  $n$  step 後ニテ = 状態  $E_i$  へ歸リテクル回数  $\psi_n$  ハ  $k'$  ト  $k''$  トノ間ニアル。最初ノ  $n$  step ノ間ニ状態  $E_i$  へカヘル頻度 (Frequency)  $\frac{\psi_n}{n}$  ノ数学的期望値ハ  $\Pi_{ii}^{(n)}$  = 等シイコトハ容易ニ分ル。  $n \geq n_0$  トラバ  $\frac{\psi_n}{n}$  ハ  $1-2\varepsilon$  ヨリ大キナ確率ヲモツテ  $\frac{k'}{n}$  ト  $\frac{k''}{n}$  ノ間ニアルカラ

$$\frac{k'}{n} = \frac{1}{M_{ii}}(1-\varepsilon) < \frac{\psi_n}{n} < \frac{1}{M_{ii}}(1+\varepsilon) = \frac{k''}{n}.$$

ソシテ常ニ  $0 \leq \frac{\psi_n}{n} \leq 1$ ,  $M_{ii} \geq 1$  デアルカラ,  $n \geq n_0$

デアレバ

$$\left| \Pi_{ii}^{(n)} - \frac{1}{M_{ii}} \right| \leq \mathbb{E} \left| \frac{\psi_n}{n} - \frac{1}{M_{ii}} \right| \leq \frac{\varepsilon}{M_{ii}} + 2\varepsilon,$$

コレカラ

$$\lim_{n \rightarrow +\infty} \prod_{i=1}^{(n)} x_i = \frac{1}{M_{ii}}$$

次  $M_{ii} = +\infty$  の場合ヲ考ヘル。コノ時ハ  $M < +\infty$ ,  $\varepsilon > 0$  が何デアラウト,  $n_0$  が存在シテ,  $n \geq n_0$  ナラバ

$$\frac{1}{n} \sum_{j=1}^n x_j = \frac{n_n}{n} \leq M$$

トナル確率ハ  $\varepsilon$  ヨリ小サクナル。コノ事情ヲ証明スルニハ, 新ラレイ互ニ独立ト variable aléatoire  $x'_n$  ナ, 對應スル  $x_n$  ヨリモ小サナ (スベテノ  $n$  = ツキ  $x'_n \leq x_n$ ), 數學的期望値ハ, 例ヘバ  $2M = \text{等シモ}$  ノヲ導入シ, コレニ前述ノ大数ノ法則ヲ適用スレバ十分デアイル。

$$n = \left[ \frac{n}{M} \right] + 1 > \frac{n}{M} \text{ トスレバ, } n \geq n_0 M \text{ ナラバ } n \geq n_0$$

トナリ,  $1 - \varepsilon$  ヨリ大キナ確率ヲモツテ次ノ不等式ガ成立スルヲ見ル。

$$\frac{n_n}{n} > M, \quad n_n > n M \geq n, \quad \psi_n \leq n \leq \frac{n}{M} + 1,$$

$$\frac{\psi_n}{n} \leq \frac{1}{M} + \frac{1}{n}$$

従ツテ,  $n \geq n_0 M$  ナラバ

$$\prod_{i=1}^{(n)} x_i = E\left(\frac{\psi_n}{n}\right) \leq \frac{1}{M} + \frac{1}{n} + \varepsilon,$$

コレカラ今ノ場合ニハ

$$\lim_{n \rightarrow +\infty} \prod_{i=1}^{(n)} x_i = 0$$

ヲ結論スルコトが出来ル。

**定理 II** 同一ノクラスノ範囲内ニ於テハ,  $M_{ii}$ ガスベテ無限大デアアルカ,  $M_{ij}$ ガスベテ有限デアアルカ, 何レカデアアル。

証明: 同一ノクラスニ属スル任意ノ二ツノ状態  $E_i, E_j$ ニツキ  $P_{ij}^{(k)} > 0, P_{ij}^{(m)} > 0$  トナル左及ビ  $m$ ハ存在スル。更ニ任意ノ  $n$ ニ対シテ明ニ

$$P_{jj}^{(n+k+m)} \geq P_{ji}^{(m)} P_{ii}^{(n)} P_{ij}^{(k)}$$

コノ不等式カラ容易ニ次ノ式が出ル。

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} P_{jj}^{(n)} \geq P_{ji}^{(m)} P_{ij}^{(k)} \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} P_{ii}^{(n)}$$

従ツテ  $\frac{1}{n} P_{ii}^{(n)}$ ノ極限ハ(狭ヘラレククラス内ノ)總テ  $i$ ニツキ,  $0$ デアアルカ  $> 0$ デアアル。故ニ Lemma IIニヨリ  $M_{ii}$ ハスベテ有限カ無限大デアアル。

$M_{ii}$ ガ有限ナラ  $M_{ij}$ ガスベテ有限デアアルコトノ証明ガ殘ル。ソノタメニ  $R_{ij}^{(n)}$ ヲ  $E_i$ カラ出テ,  $n$  step 後ニ, 途中デ  $E_i$ ヘ入ルコトナク,  $E_j$  ( $j \neq i$ )ヘ行ク確率トスル。シカルトキハ

$$M_{ii} = \sum_{m=1}^{\infty} m K_{ii}^{(m)} + \sum_{j \neq i} R_{ij}^{(n)} (M_{ji} + n) *$$

シカルニ同一ノクラス内デ任意ノ  $i, j$ ニ対シ  $P_{ij}^{(n)} > 0$  トナル  $n$ ヲ見出スコトガデキル。

\* 脚註ハ次頁ヘ

コ) 様=シテ  $M_{ji} = +\infty$  トラバ  $M_{ii} = +\infty$  トナル。ロ  
 レデ証明ハ無事ニ終ル。スベテノ  $M_{ij}$  ガ有限トクらすヲ正  
くらす, スベテノ  $M_{ii} = +\infty$  トナルくらすヲぬるくらす  
 (null class) ト呼ブ。null class テハアル  $M_{ij}$   
 ( $i \neq j$ ) ハ有限ニトリ得ルコトハ指適レテオクベキデアラ  
 ウ。

**定理 III** ぬるくらすニ於テハ, 状態  $E_i$  及ビ  $E_j$  1  
如何ニ関セズ, 確率  $P_{ij}^{(n)}$  ハ  $n \rightarrow +\infty$  = 際シ零ニ收敛ス  
ル。

定理 III ノ証明ニハ次ノ Lemma ガ必要デアイル。

**Lemma II** ぬるくらすニ於テハ, 任意ノ  $E_j =$   
ニ對シ

$$\prod_{jj}^{(n, m)} = \frac{1}{m} \left( P_{jj}^{(m+1)} + P_{jj}^{(m+2)} + \dots + P_{jj}^{(n+m)} \right)$$

ハ  $m \rightarrow +\infty$  ノトキ,  $m$  = 関レテハ一様ニ零ニ收敛ス  
ル。

(補註)

\* 実際  $r > n$  トラ  $K_{ii}^{(r)} = \sum_{j \neq i} R_{ij}^{(n)} K_{ji}^{(r-n)}$

$$\begin{aligned} \text{故ニ } M_{ii} &= \sum_{m=1}^{\infty} m K_{ii}^{(m)} = \sum_{m=1}^n m K_{ii}^{(m)} + \sum_{r>n} r \sum_{j \neq i} R_{ij}^{(n)} K_{ji}^{(r-n)} \\ &= \sum_{m=1}^n m K_{ii}^{(m)} + \sum_{j \neq i} R_{ij}^{(n)} \sum_{s=1}^{\infty} (n+s) K_{ij}^{(s)} \\ &= \sum_{m=1}^n m K_{ii}^{(m)} + \sum_{j \neq i} R_{ij}^{(n)} (M_{ji} + n) \end{aligned}$$

証明: 最初ノ状態ヲ  $E_j$  トシ, (最初ノ  $m$  steps 中 =  $E_j$  = 戻ルカ否カ = ハ無関係 =),  $(n+1)^{th}$  step 以後ニ  $(n+s)^{th}$  step デハジテ状態  $E_j$  が現ハレル確率ヲ  $H^{(s)}$  トスル. コノ時

$$P_{jj}^{(n+k)} = \sum_{s=1}^k H^{(s)} P_{jj}^{(k-s)},$$

$$\begin{aligned} \Pi_{jj}^{(n,m)} &= \frac{1}{m} \sum_{k=1}^m P_{jj}^{(n+k)} = \frac{1}{m} \sum_{s=1}^m H^{(s)} \sum_{k=0}^{m-s} P_{jj}^{(k)} \\ &= \sum_{s=1}^m H^{(s)} \frac{(m-s)}{m} \Pi_{jj}^{(m-s)} + \frac{1}{m} \sum_{s=1}^m H^{(s)} \dots (12) \end{aligned}$$

$\gamma \geq \gamma_0$  + ラバ常 =  $\Pi_{jj}^{(r)} < \epsilon$  トナル  $\gamma_0$  ヲトリ (ソレハ lemma II a = ヨリ常 = 可能デアル);  $m_0 > \frac{\gamma_0}{\epsilon}$  ト選テ、更ニ  $m \geq m_0$  トスルト、 $m-s \leq \gamma_0$  + ラ  $\frac{m-s}{m} < \epsilon$  トナリ  $m-s \geq \gamma_0$  + ラバ  $\Pi_{jj}^{(m-s)} < \epsilon$  トナル。

常 =  $\frac{m-s}{m} \leq 1$ ,  $\Pi_{jj}^{(m-s)} \leq 1$  デアルカラ、スベテノ

$m \geq m_0$  = 對シテ

$$\frac{m-s}{m} \Pi_{jj}^{(m-s)} < \epsilon.$$

$$\sum_{s=1}^m H^{(s)} \leq 1$$

ヲ考慮スレバ (12) カラ  $m \geq m_0$  デサレバ  $\Pi_{jj}^{(n,m)} < \epsilon + \frac{1}{m}$  ヲ得ル.  $\epsilon$  ハ任意ナルコ無関係デアルカラ、コレヲ lemma ハ証明サレタ。

定理 III ノ証明. 先ツ定理ノ証明ニハ、 $i=j$  ノ時ニ

証明スレバ即チ  $P_{ij}^{(n)} \rightarrow 0$  ( $n \rightarrow +\infty$  ヲ言ハバ充分デアアル  
コトヲ注意シヨウ。實際ニ,  $P_{ji}^{(m)} > 0$  トナル  $m$  ヲ選ババ  
明カニ

$$P_{ij}^{(n+m)} \geq P_{ji}^{(m)} P_{ij}^{(n)}$$

$m$  ヲ固定シテ  $n \rightarrow +\infty$  トスレバ,  $P_{ij}^{(n+m)} \rightarrow 0$  カラ  $P_{ij}^{(n)} \rightarrow 0$   
ガ出ル。

$$\text{今 } \overline{\lim}_{n \rightarrow +\infty} P_{ij}^{(n)} = \lambda > 0$$

ト假定シヨウ。コノ假定カラ矛盾ヲ生ズレバ定理 III ハ証明  
ナレタリケデアアル。

$$K_{ij}^{(a)} = A > 0$$

トナル整数  $a$  ヲ選バ。任意ノ  $\varepsilon > 0$  対シ  $n_0$  ガ存在シテ  
 $n \geq n_0$  ナラバ

$$P_{ij}^{(n)} \leq \lambda + \varepsilon$$

ガ成立スル。更ニ, アル  $\delta > 0$  対シ

$$\sum_{n > n_0} K_{ij}^{(n)} < \delta$$

トナル  $m_0 = m_0 \geq a$  ヲ選バ。然ルトキハ假定ニヨリ

$$n \geq n_0 + m_0, P_{ij}^{(n)} \geq \lambda - \eta \quad (\eta > 0)$$

デアレバ

$$P_{ij}^{(n-a)} \geq \lambda - \frac{\eta + \varepsilon + \delta}{A}$$

ガ成立スル。實際

$$\begin{aligned} \lambda - \eta &\leq P_{jj}^{(n)} = K_{jj}^{(n)} P_{jj}^{(0)} + K_{jj}^{(n-1)} P_{jj}^{(1)} + \dots + K_{jj}^{(1)} P_{jj}^{(n-1)} \\ &= K_{jj}^{(a)} P_{jj}^{(n-a)} + \sum_{a \neq m < m_0} K_{jj}^{(m)} P_{jj}^{(n-m)} + \sum_{m_0 < m \leq n} K_{jj}^{(m)} P_{jj}^{(n-m)} \\ &\leq A P_{jj}^{(n-a)} + (1-A)(\lambda + \varepsilon) + \delta, \\ P_{jj}^{(n)} &\geq \lambda - \eta \end{aligned}$$

トテバ  $n \geq n_0 + m_0 + sa$  ナラバ

$$P_{jj}^{(n-a)} \geq \lambda - \frac{\eta + \varepsilon + \delta}{A} = \lambda - \eta_1,$$

$$P_{jj}^{(n-2a)} \geq \lambda - \frac{\eta_1 + \varepsilon + \delta}{A} = \lambda - \eta_2,$$

-----

$$P_{jj}^{(n-sa)} \geq \lambda - \frac{\eta_{s-1} + \varepsilon + \delta}{A} = \lambda - \eta_s$$

カ出ル。茲ニ

$$\eta < \eta_1 < \eta_2 < \dots < \eta_s.$$

シカレニ任意ノ  $s$  対シ  $\eta_s < \frac{\lambda}{2}$  トナル様ニ  $\eta > 0, \varepsilon > 0, \delta > 0$  ヲ選ビ出スコトガ出来ル。ソレニ對應スル  $n_0$  ト  $m_0$  トヲトレバ、スベテノ  $n \geq n_0 + m_0 + sa$  及ビ  $P_{jj}^{(n)} > \lambda - \eta$  ニ對シテハノ不等式ヲ得ル。

$$P_{jj}^{(n)} > \frac{\lambda}{2}, P_{jj}^{(n-a)} > \frac{\lambda}{2} \dots P_{jj}^{(n-sa)} > \frac{\lambda}{2},$$

$$\pi_{jj}^{(n-sa, sa)} > \frac{1}{sa} \cdot s \cdot \frac{\lambda}{2} = \frac{\lambda}{2a}.$$

$\frac{\lambda}{2a}$  ハ常数、 $s$  ハ如何程デモ大キク出来、 $n$  ハ固然ニ  $\Delta =$  對シテハ如何ホドデモ大キク値ヲトレコトガ出来ル。コレハ

Lemma II b = 矛盾スル。

### §5. 正くらすノ内部 = 於ル漸近的關係

定理 III ヲ証明スルコト = 依リ、第一近似トシテノぬるくらすノ研究ハ完了スル。正くらす = 廣シテハ次ノ一般定理ガ差 = 成立スル。

**定理 IV a** 正くらす  $S^{(\alpha)}$  = 於テ、部分くらす  $S_{\beta}^{(\alpha)}$  カラ  $E_i$  ヲ、 $S_{\gamma}^{(\alpha)}$  カラ  $E_j$  ヲ任意 = トルトキ、 $n$  ガ  $n \equiv \beta - \gamma \pmod{d(\alpha)}$  ナレバ、値ヲトツテ無限大 = 赴ケバ、確率  $P_{ij}^{(n)}$  ハ  $i = j$  無關係ト極限

$$P_j = \frac{d(\alpha)}{M_{jj}}$$

ニ收斂スル。

注意:  $n \not\equiv \beta - \gamma \pmod{d(\alpha)}$  ノトキハステ = 示シタ様 = (P. )  $P_{ij}^{(n)} = 0$  ナル。定理 IV ノ証明 = ハ一聯ノ lemma ガ必要ナラズ。

**Lemma III** positive class ナハ任意ノ  $i, j$  及ビ  $\varepsilon > 0$  = 對シ、 $\rho$  ノ  $n =$  對シテ  $E_i$  カラ出テ  $n^{\text{th}}$   $(n+m)^{\text{th}}$  step ノ間 = シク  $E_j$  = 一回  $E_j$  ヲ訪レル確率が  $1 - \varepsilon$  ヲ大ヤクナル様ナ  $m$  ガ存在スル。

証明:  $E_i$  ヲ出テ上述ノ期間中 =  $E_j$  ヲ訪レ又確率ハ

$$P = \sum_{p=n+m}^{\infty} K_{ij}^{(p)} + \sum_{k=1}^{n-1} P_{ij}^{(k)} \sum_{p=n+m-k}^{\infty} K_{jj}^{(p)}$$

$$\begin{aligned}
&= \sum_{n+m}^{\infty} K_{ij}^{(p)} + \sum_{p=m+1}^{n+m-1} K_{jj}^{(p)} \sum_{k=n+m-p}^{(k)} P_{ij}^{(k)} + \sum_{p=n+m}^{\infty} K_{jj}^{(p)} \sum_{k=1}^{n-1} P_{ij}^{(k)} \\
&\leq \sum_{p=m}^{\infty} K_{ij}^{(p)} + \sum_{p=m+1}^{\infty} p K_{jj}^{(p)} = U^{(m)}
\end{aligned}$$

シカレ = モシ

$$M_{jj} = \sum_{p=1}^{\infty} p K_{ij}^{(p)}$$

が有限ナラバ、 $U^{(m)}$  ハ  $m \rightarrow +\infty$  ノトキ  $0$  = 収斂スル。 $U^{(m)}$  ハ  $n$  = 無関係デアレカラ、lemmaヲ証明サレタ。

Lemma IVa 一ツノ sub class カラ ナル positive class ナ

$$\lim_{n \rightarrow +\infty} P_{ij}^{(n)} > 0$$

証: class ガ一ツノ sub class カラ ナルトキハ、 $k \geq k_0$  ナラバ常 =  $P_{ij}^{(k)} > 0$  トナル  $k_0$  ガ存在スル。lemma III = 於ケル  $\epsilon$  ヲ  $\frac{1}{2}$  トシテ  $i, j$  = 対シテ lemma III ガ成立スル  $m$  ヲ選テ。

$$\lambda = \inf \left\{ P_{jj}^{(k_0)}, P_{jj}^{(k_0+1)}, \dots, P_{jj}^{(k_0+m)} \right\}$$

トオク。明ラカ =  $\lambda > 0$ 。サテ  $n' > m + k_0$  トシ、 $n' = n + m + k$  トオク。状態  $E_i$  ヲ出テ  $n^{\text{th}}$ ,  $n+m^{\text{th}}$  step 間 = 状態  $E_j$  ヲ訪レル確率ハ  $\frac{1}{2}$  ヲリ大キイ。

$n^{\text{th}}$  カラ  $(n+m)^{\text{th}}$  step 間 = 最初ノ訪問ハ  $(n+s)^{\text{th}}$  step = 起ツタトセヨ ( $s < m$ )、コノ假定) 下テ  $n' = n + m + k_0$

step 1 後 =  $E_j$  へカへル条件確率  $P_{ij}^{(k_0+m-s)} \geq \lambda$  デ  
 プル。コノ不等式ハ任意ノ  $s (1 \leq s < m)$  デ成立ツ。故ニ  
 $E_j$  ヲ出テ  $n' = n + m + k_0$  step 後 =  $E_j$  へ行ク全確率  
 $P_{ij}^{(n')}$  ハ次ノ不等式ヲミタス。

$$P_{ij}^{(n')} > \frac{1}{2} \lambda$$

コレハ任意ノ  $n$  デ正シイナラ Lemma 1 証明ハ終ル。

**Lemma IV b** 一ツノ sub class 方ヲ +ル posi-  
 tive class 方ハ

$$\lim_{n \rightarrow +\infty} P_{ii}^{(n)} = \frac{1}{M_{ii}}$$

証 先ツ  $n \rightarrow +\infty$  ノトキ、極限ノ存在カラ始メル。

次ノ様ニ書ク。

$$\lim_{n \rightarrow +\infty} P_{ii}^{(n)} = a,$$

$$\overline{\lim}_{n \rightarrow +\infty} P_{ii}^{(n)} = b.$$

Lemma IV a = ヲリ  $b \geq a > 0$ .  $\varepsilon > 0$  トセヨ。  $j=i$   
 = 対シ Lemma III ヲ満足スル  $m$  ヲ選ブ。更ニ  $\varepsilon \geq \varepsilon_0$  ナラ  
 次ノ不等式ガ成立スル様ニ  $\varepsilon_0$  ヲ選ブ。

$$a - \varepsilon < P_{ii}^{(k)} < b + \varepsilon$$

$$n > m + k_0 \quad \text{ヲ} \quad P_{ii}^{(n)} < a + \varepsilon, \quad n' > n + k_0 \quad \text{ヲ} \quad P_{ii}^{(n')} > b - \varepsilon$$

ト +ル  $\varepsilon$  / トスル (コノ様ニ  $n, n'$  ハ常ニ見出セル)  $n' - n = k_0$   
 トオケル

$$P_{ii}^{(n')} = P_{ii}^{(k)} P_{ii}^{(n)} + A^{(1)} P_{ii}^{(n-1)} + A^{(2)} P_{ii}^{(n-2)}$$

$$+ \dots + A^{(n)} P_{ii}^{(0)}$$

コゝテ  $A^{(s)}$  は、最初ハ  $E_i = \text{アル条件ヲ}$ 、 $k$  ick  $\Delta$  step 以後テ  
ハ  $(k+\Delta)^{ick}$  step テ ハジナテ  $E_i$  へ カヘル 確率 ナル。

明ラカ =

$$P_{ii}^{(k)} + \sum_{\Delta=1}^n A^{(s)} \leq 1$$

ノ ミ ナラズ Lemma III =  $\exists 1)$

$$P_{ii}^{(k)} + \sum_{s=1}^m A^{(s)} > 1 - \varepsilon$$

コノ ツノ 不等式カラ、次ノ コトガ マカル。

$$\sum_{s=m+1}^n A^{(s)} < \varepsilon$$

尚ホ、 $s \leq m$  ナラ 不等式  $n-s > k$  カ、従ツテ  $P_{ii}^{(n-s)}$

$< b + \varepsilon$  ガ 成立スル コトヲ 注意スル。コノ 故 =

$$\begin{aligned} P_{ii}^{(n')} &= P_{ii}^{(k)} P_{ii}^{(n)} + \sum_{\Delta=1}^m A^{(\Delta)} P_{ii}^{(n-s)} + \sum_{s=m+1}^n A^{(s)} P_{ii}^{(n-s)} \\ &\leq P_{ii}^{(k)} (a + \varepsilon) + (1 - P_{ii}^{(k)}) (b + \varepsilon) + \varepsilon \\ &= b + 2\varepsilon - P_{ii}^{(k)} (b - a). \end{aligned}$$

コノ ツ  $P_{ii}^{(k)} > a - \varepsilon$ 、 $P_{ii}^{(n')} > b - \varepsilon$ 、及  $\varepsilon \leq b - a \leq 1$  ナラ 願ハ

ズレバ

$$b - \varepsilon \leq b + 2\varepsilon - (a - \varepsilon)(b - a) \leq b + 3\varepsilon - a(b - a),$$

$$a(b - a) \leq 4\varepsilon,$$

$$b - a \leq \frac{4\varepsilon}{a}$$

ヲ得ル。  $a > 0, \varepsilon > 0$  ハ任意ナルカラ  $b - a = 0$ , コレ  
ハ  $P_{ii}^{(n)}$  ノ極限が存在シテ  $b = a$  =等シイコトヲ示ス。

Lemma II a カラ 間接 = コノ極限ハ  $\frac{1}{M_{ii}}$  =等シイコト  
ガワカレ。

**定理 IV a ノ証明** 與ヘテ Markoff 連鎖, ホ  
カ =, 元々めんたり - 遷移確率

$$\bar{P}_{ij} = P_{ij}^{(d)}$$

ヲ定義サレル新ラシイ Markoff 連鎖ヲ考ヘヨク。コノ  
= d ハ考ヘテキルくらすノ周期ナル。明ラカ = 吾々ノくら  
すノ状態 = ツイテハ

$$\bar{P}_{ij}^{(n)} = P_{ij}^{(nd)}$$

ナル。新シイ Markoff 連鎖 = アツテハ状態ノくらすハ  
唯一ツノ部分くらすヨリナル。故 = Lemma IV b =ヨリ

$$\lim_{n \rightarrow +\infty} P_{ii}^{(nd)} = \lim_{n \rightarrow +\infty} \bar{P}_{ii}^{(n)} = \frac{1}{M_{ii}} = \frac{d}{M_{ii}}$$

カクシテ定理 IV a ハ  $i = j$  ナル場合 = 証明サレタ。一般ノ  
場合ヲ証明スルタメ =,

$E_i$  ナラ  $E_j$  へ遷移スル = 要スル最小ノ step 數ヲ  $q$   
トスルト (明 =  $q \equiv \gamma - \beta \pmod{d}$ ),

$$P_{ij}^{(nd+q)} = \sum_{m=0}^n K_{ij}^{(nd+q)} P_{jj}^{(nd-md)}$$

トナル。シカレ =

$$\sum_{m=1}^{\infty} K_{ij}^{(md+q)} = 1$$

だから,  $P_{ij}^{(nd-md)}$  は  $n$  を固定して  $n \rightarrow +\infty$  とすれば  $\frac{d}{M_{ij}}$  に収斂スル。よ、事カラ

$$\lim_{n \rightarrow +\infty} P_{ij}^{(nd+q)} = \frac{d}{M_{ij}}$$

定理 IV a の本質的補足ハ

**定理 IV b** positive class への各々, sub class = 於ケルスベテノ状態ニ対スル極限  $P_j$  ノ和ハ  $\mathbf{1}$  = 等シイ。

定理 IV b ハ次ノ lemma カラ容易ニ出ル。

**Lemma V** positive class = 於テハ, 任意ノ  $\varepsilon > 0$  = 対シ, 有限個ノ状態ノ system  $E_{j_1}, E_{j_2}, \dots, E_{j_k}$  ガアツテ, コノ class ノ任意ノ  $E_i$  上充分大キキスベテノ  $n$  = 対シテ

$$\sum_{s=1}^k P_{i_j s}^{(n)} > 1 - \varepsilon$$

証明:  $i_0$  ノ任意ニ選ブ。Lemma III = ヲツテ, 任意ノ  $n$  = 対シ,  $E_{i_0}$  ノ出ヲ出テ  $n^{\text{th}}$  カラ  $(n+m)^{\text{th}}$  step ノ間ニ少クトモ  $-\frac{\varepsilon}{3} \cdot E_{i_0}$  ノ訪レル確率ガ  $1 - \frac{\varepsilon}{3}$  ヲリ大キクナル様ナ  $m$  ガ存在スル。

任意ノ  $r \leq m$  = 対シ

$$\sum_{s=1}^k P_{i_0 j_s}^{(r)} > 1 - \frac{\varepsilon}{3}$$

トナル様 + system  $E_{j_1}, E_{j_2}, \dots, E_{j_k}$  を選ぶコトハ  
 増 = 可能ナル。コノ様 = 選ぶ system が Lemma 1  
 条件ヲミタスコトヲ証明シヨカ。ソノタメニドレカーツイヲ固  
 定シテ  $q$  ヲ

$$\sum_{t=1}^q K_{i:i_0}^{(t)} > 1 - \frac{\varepsilon}{3}$$

トナル様 = 選ぶ。  $n > m + q$  トシ  $n = q' + m$ ,  $q' > q$   
 トオク。

$1 - \frac{\varepsilon}{3}$  より大キナ確率ヲ以テ最初  $q'$  steps ヲ  $E_i$  カ  
 ラ  $E_{i_0}$  へ行リ。  $\leq q'$  ナル steps ヲハ最初 =  $E_{i_0}$  へ戻ラ  
 ス,  $1 - \frac{\varepsilon}{3}$  より大ナル確率ヲ  $q'$ th カラ  $(q' + m)$ th steps  
 間ガ  $E_{i_0}$  へ戻ル。 モシコレガ  $(q' + m - r)$ th steps ノド  
 レカヲ起レバ,  $1 - \frac{\varepsilon}{3}$  より大キナ確率ヲ以テ  $q' + m$  steps 後  
 = ハ選バレタ状態ノーツ  $E_{j_s} = \text{ナル}$ 。 カクシテ  $(1 - \frac{\varepsilon}{3})^3 > 1 - \varepsilon$   
 より大ナル確率ヲ,  $E_i$  ヲ出テ  $n = q' + m$  steps 後 = ハ  
 選バレタ状態ノーツ  $E_{j_s} = \text{行ク}$ 。 コレヲ Lemma が証明  
 サレ、同時ニ定理 IV b も証明サレタ。

注意: 定理 IV a カラ,  $\pi_{ii}^{(n)}$  ガ  $\frac{1}{M_{ii}} = \text{收斂スル (lem. II a)}$  バカクテナク  $E_i$  ト同一ノクラスニ属スル  $E_j = \text{対シテ}$   
 $\pi_{ji}^{(n)}$  も同一ノ極限ニ收斂スルコトガワカル。 定理 IV b = ヲ  
 リーツノ部ハクラスノ状態ノスズヲ = 閉スル和  $\sum \frac{1}{M_{ii}}$  ハ  $\frac{1}{2}$   
 (2 ハクラスノ周期) = 等シク, 全クラスノ状態 = 閉スル和  
 ハ 1 = 成シイ。

## §6. 其他ノ場合ニ於ケル確率ノ漸近的行動

§2デ考察シタコトニヨリ、スベテ、 $n =$  就キ  $P_{ij}^{(n)} = 0$  トナル状態ノ組  $E_i, E_j$  ハ措キ、 $E_j$  ガ非本質的デアレバ  $n \rightarrow +\infty$  ノ際ニ、常ニ  $P_{ij}^{(n)}$  ハ零ニ收斂スルコトヲ注意スル。更ニ、ヨリ複雑ト場合：  $E_i$  ハ非本質的、 $E_j$  ハ本質的デアレバ、 $S^{(\omega)}$  = 属スル場合ヲ考ヘヨ。非本質的状態  $E_i$  ニ対シ、 $E_i$  ヲ出テ遂ニハ  $S^{(\omega)}$  ノアル状態ニ達スル確率ヲ  $N_{i, \gamma}^{(\omega)}$  トシヨ。明ラカニ、 $S^{(\omega)}$  ノ内ノ状態ニ達スレバ、 $S^{(\omega)}$  ノ外ニ出ルコトハ不可能デアレカラ

$$\sum_i N_i^{(\omega)} \leq 1$$

デアレ。最初ノ状態  $E_i$  カラ、 $S^{(\omega)}$  = 入ル場合ニハ  $S^{(\omega)}$  ノ最初ノ状態  $E_j$  ニ達スルニ要スル  $\Delta$  step 数ヲ  $n_0$  トスル。最初ノ状態  $E_j$  ノ属スル部分ニ入ル  $S^{(\omega)}$  ノ番号ヲ  $\beta_0$  トスル。  $N_{i, \gamma}^{(\omega)}$  ヲ最初ノ状態  $E_i$  カラ  $n_0 \equiv \beta_0 + \gamma \pmod{d(\omega)}$  内ニ入ル確率トシヨ。明ラカニ

$$\sum_{\gamma=1}^{d(\omega)} N_{i, \gamma}^{(\omega)} = N_i^{(\omega)}$$

次ノ定理ガ成立スルヲ示スコトガ出来る。

**定理  $\nabla$**  非本質的  $E_i$  ト部分ニ入ル  $S^{(\omega)}$  = 属スル本質的  $E_j$  = 対シ、 $n$  ガ  $n \equiv \beta \pmod{d(\omega)}$  +  $n$  値ガ  $n \rightarrow +\infty$  トナル時、確率  $P_{ij}^{(n)}$  ハ  $N_{i, \beta-x}^{(\omega)} P_j =$  收斂スル。

コノ様ニ固定シキ  $i, j$  = 対シ  $P_{ij}^{(n)}$  1  $n =$  対スル関係ハ (本質, 非本質) スベテノ場合ヲ通シ漸近一周期的

(asymptotic-periodic) であることを見る。平均  
 $\prod_{ij}^{(n)}$   $\forall \epsilon > 0$   $n \rightarrow +\infty$  のとき常 = 一定ノ極限  $\prod_{ij}$  を  
持つてくれる。